



作文1部

もんぶ か かく だいじんしょう
文部科学大臣賞

日本のこころ「おそまつさま」

やまがた けんよねざわ しりつ ほんがく
山形県米沢市立北部小学校三年

あおき まい
青木 舞桂

「ごちそうさまでした。」

「おそまつさまでした。」

これはいつもの私たちのあいさつ。まるで合言葉のように、私が「ごちそうさま」というと必ずおばあちゃんは「おそまつさま」と言う。

そこで私はその意味を調べてみた。すると、「自分が料理をしてふるまったとき、その相手に『大した料理ではありませんが』というけんその気持ちをおぼわす言葉」と書いてあったので、私はおばあちゃんに「今日は大好きなドライカレーと五こく米だから、ごちそうだよ。」と言うと、おばあちゃん「なるほどね。」と言ってにっこり笑った。

おいしいごはんのお礼に、私はいつも食べ終わった食器やおなべ、炊飯器のおかまやしやもじを一人であらう。たらいに水を張ってから洗剤を二、三滴

たらし泡立て器でかきまぜる。泡のたらいの中で食器は気持ちよさそうにしている。手際よく食器を洗い終わると、おばあちゃん「いつも上手だね。ありがとう。」とほめてくれるから、次の日私は一人でご飯とおみそ汁を作ることにした。

お米を水洗いするときには栄養をにがさないようにやさしくしていねいに、水の量は少し多めで、そのまましばらくお米に水を吸わせてから炊く。ご飯が炊き上がるまでの時間、今度はとうふとわかめのおみそ汁作り。だし汁を入れたなべを火にかけて材料を入れ、煮立たせてから火を止めてみそを溶き入れると、おみそ汁の出来上がり。炊き立てのご飯とおみそ汁をもり付けて、おばあちゃんに食べて貰う。おばあちゃんは全部ぺろりと食べてから、「今まで食べたご飯の中で一番おいしかったよ。ごちそうさまでした。」と言ってくれたので、私はけんそんな心の中で「おそまつさまでした。」と言った。私の心の中でさわやかなそよ風が吹いたようなそんな気がした。